

英語科 授業実践

雑誌名	教科実践のまとめ：授業実践事例集：共に創りあげる授業：『思考力』を育みながら「教科ならではの文化」を味わう子どもたち
巻	平成30年度
発行年	2018-03
出版者	静岡大学教育学部附属静岡中学校
注記	題材名：“Let's Talk About Current Events!”-フリーイングリッシュトークで対話を生み出そう-
著者版フラグ	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10297/00026735

英語科 授業実践

- 1 題材名 “Let’s Talk About Current Events!”
ーフリーイングリッシュトークで対話を生み出そうー

2 題材の目標

身の回りに起こる様々な出来事について書いたり、英文記事を読んで主旨を把握できるようになったりした子どもたちが、様々な話題について英語で意見交換することを通して、対話することについての考えを深めながら、英語で伝え合う喜びを感じることができる。

3 題材観

(1) 会話を対話へ

私たちの生活は、友だちとの会話、同僚との会話、家族との会話、近所の人との会話など、会話であふれています。さらに話題に関して言えば、趣味について、昨日の出来事についてなどきりがありません。このように、会話は日常的であると言えますが、対話をしているかと考えた時、疑問が残ります。そもそも会話と対話の違いはあるのでしょうか。

劇作家の平田オリザさんは「会話」と「対話」について以下のように述べています。「『会話』とは家族や友人のように、すでに知り合った者どうしのおしゃべりのことを指します。一方『対話』とは、初対面の人や自分のことをよく知らない人と交わす新たな情報交換や交流のことです。また、ごく親しい人との間でも、お互いの考えの違いをふまえながら、なにか新しい問題や話題について話し合う場合には、それは『対話』といってもいいでしょう。」「対話では、必ずしも、自分の意見に賛成してくれなくてもいいのです。むしろ、自分の意見や価値観を表明し、同時に相手の価値観にもふれることによって、お互いの価値観の違いや共通点を発見し、そこから、お互いの中に新しい価値観が生まれてくるのが大事なのです」つまり、対話することで、互いに意見を交わしながら、新しい知識を得たり、新しい考えを生み出したりすることができるということがわかります。

このような看板を見て「見たことある」「知らなかった」「いいね!」といった会話にとどまらず「私は公園でのキャッチボールを禁止することに反対です。なぜなら……」「小さい子どもがいる親からすれば、このような看板は当たり前だ」「看板が無くて快適に公園を使える人たちは素敵だ」といった発言は対話になり得るでしょう。それらの対話の先に、より多くの人にとってよりよい公園のあり方、使い方についての新た

な考えが生み出される可能性を秘めているからです。さらに、その人の人となり、発言や対話に臨む姿勢に表れます。誰と誰が対話したかによって、生み出される新たな考えも変わってくるでしょう。答えのない問いに挑むことが多い私たちの生活において、多様な答えを出すことができるということは、欠かすことができません。また、対話によって新たな考えを生み出すことがおもしろいと感じることができるのであれば、対話することは私たちの生活を豊かにしてくれるのではないのでしょうか。

(2) 対話を生むために必要な要素

①What do you think?に意見をもつこと

2001年、アメリカで同時多発テロが起きました。アメリカ全体が、その事態にどのように対処すべきかを考えている雰囲気に満ちていた時、私は一人のアメリカ人に話しかけられました。“What do you think?” “Should we send our military to the battle field?” アメリカで起こっていることをどこか人事のようにとらえ、戦争など起こるはずがないという希望的観測にとどまり、その先を考えたことがなかった私が、彼の質問に対する答えに窮したことは明白です。正解は先生がくれるもの、正解は決まっているもの、正解は暗記するもの、そのように考えていた私が、「報復のために軍隊を派遣することは正しいのか」という問いに、答えられるはずがありませんでした。要領を得ない私をその場に残して、アメリカ人は去っていきました。アメリカ人がその場を去ってしまったのは、私の英語運用力がなかったということよりも、意見をもつことができていなかったことが理由だったのでしょうか。

私一人意見をもっていたところで、軍隊を動かすことができるわけでも、国の政策を決定することができるわけでもありません。しかし、当時私が自分の意見をもつことができていたとしたら、偶然話しかけてきたアメリカ人と対話できたは



ずです。対話ができているならば、アメリカ人の価値観にふれ、自分にはなかった考え方を知り、さらに考えるきっかけを得られ、自分の世界が少し広がったかもしれません。自分の意見をもつことが、対話を生むために必要不可欠であることは言うまでもないでしょう。

②話題の論点を把握すること

対話では、相手の意見に耳を傾けて、意図を確認するような質問をし合うことで、話題の論点に迫



っていくことができるでしょう。話題に対してあまりにも知識が不足していたり、全体を把握しようとせず、細かい言葉尻をとらえてばかりいたりしては対話になりません。対話をよりよいものにするために、話題の論点をきちんとつかむ必要があります。何について話をしているかを、互いが理解して話すからこそ対話となり得ます。

③相手を尊重すること

相手の話を聞き入れたり、自分の主張を押し通したりするだけでは、対話とは言えないでしょう。対話は、互いの価値観や考えを受け入れるといった相手を尊重する気持ちが大切です。相手の意見を理解しようとしながら、自分の意見を真摯に伝えようとする姿勢が欠かせないと考えます。理解できないときには質問をして、相手を理解しようと努めたり、意見を言いたそうな仲間に話を振って、多くの価値観を取り入れようとしたりするなどの配慮は相手を尊重することであり、対話を深めるために必要なことでしょう。

④What do you think?!に値する話題であること

話題そのものが相手にとって興味深いものであったり、身近な話題であったりすると、相手は意見をもちやすくなるでしょう。また、価値観によって異なる考えを生み出すことができる話題であれば、対話が深まっていくことが期待できそうです。昨日の食事についての報告を受けるだけでは、対話にはなりづらいでしょう。対話を生むためには、どのような話題で対話をするかを考える必要があります。

(3) 英語で対話する

異言語でコミュニケーションを図る時に生じる伝わりにくさによって「どのように伝えれば相手

に自分の真意が伝わるのか」また「相手は何を言おうとしているのか」ということに意識が向けられます。だからこそ、これまで述べてきた対話を生むための要素を改めて意識することにつながります。伝わりにくさ乗り越えた時に、子どもたちはよりよい対話を創っていくことができるでしょう。

さらに、外国に住んでいる人は異なる文化をもっていることが多いため、外国人と対話することで、日本人同士の対話では、得ることができなかった新たな考えを得られることが多くあります。「この話題について外国人はどのように考えるのか」という新たな視点は、対話の深まりに効果的にはたらくことでしょう。対話が新たな考えを取り入れることを目的の一つとするならば、英語で対話することは、世界の人々と価値観を交流することであり、自分の世界を大きく広げる一助になるでしょう。

(4) 英語と向き合う子どもたち

不定詞や動名詞を学んだことによって、身の回りの出来事や概念について、英語で表現したり理解したりするチャンスが格段に増えると言えるでしょう。対話する時には、自分の意見をもったり、相手が意見をもちやすい身近な話題を選んだりする必要があるので、不定詞や動名詞を学んだ子どもたちは対話の中で積極的に使っていくと考えられます。

子どもたちが英語で対話する時には、既習の英語を駆使して相手に伝えていきます。さらにALTや授業者に文法表現を確認したり、辞書を活用したりするでしょう。英語学習者である子どもたちにとって、簡単に乗り越えられないハードルがあることは否めません。しかし、自分の伝えたいことが話題の中心にあるため、子どもたちは粘り強く、主体的に対話していくでしょう。英語で対話ができるようになったと実感した時、世界をもっと身近に感じることはできるはずで

「(英語の授業に限らず)どのような時に授業が楽しいと思いますか」という質問をすると、9割以上の子どもたちが「みんなで意見を交わしているときです」と答えました。「他の人の意見を聞いて、自分の考えを深めることができる」「自分の意見にみんなが反応してくれることがうれしい」「意見を言うために調べ学習をする。そのときに自分の知りたいことをとことん調べていくことができるのでおもしろい」といった理由も聞かれました。このことからわかるように、子どもたちは、主体的に意見交換をしながら、考えを深めていったり

仲間から新しい知識を吸収していったりする対話を「楽しい（おもしろい）」と感じています。本題材では、話題選択や論点整理を自分たちで決定するフリーイングリッシュトークに取り組みます。英語でも深い対話ができるとき、子どもたちは改

めて対話することのおもしろさとともに、人とかわることに喜びを見いだしていくことができるでしょう。

4 学習指導要領との関連

(1) 言語活動

ア 聞くこと

(エ) 話し手に聞き返すなどして内容を確認しながら理解すること。

イ 話すこと

(ウ) 聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりなどすること。

ウ 読むこと

(オ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。

エ 書くこと

(ウ) 聞いたり読んだりしたことについてメモをとったり、感想、賛否やその理由を書いたりなどすること。

5 授業実践

(1) 与えられた課題について互いに意見を伝え合う

対話を生むために必要な要素を、子どもたちはタスク（課題）を用いた活動を通して学びました。この活動では二人でペアをつくり、それぞれ別のタスク（課題）が書かれた紙を授業者から受け取ります。情報のギャップを埋めるように、ペアで質問や提案をしていく中で意見をすりあわせ、Mission の達成をめざします。以下は子どもたちが取り組んだタスクです。

Mission

修学旅行(school trip)への行き先をクラスで話し合って決めることになりました。

- ・修学旅行は5日間です
- ・あなたは外国(foreign countries)に修学旅行に行きたい派です。友だちを説得できる理由を考えて、修学旅行はぜひ海外旅行にしましょう

Mission

修学旅行(school trip)への行き先をクラスで話し合って決めることになりました。

- ・修学旅行は5日間です
- ・あなたは国内を旅行する派です。友だちを説得できる理由を考えて、修学旅行はぜひ国内旅行にしましょう

子どもたちは自分に与えられた Mission を達成しようと、既習の英語を駆使したりジェスチャーを使ったりしながら取り組んでいきました。

Mission に取り組んだ後「どのような英語を使うことができたのか」などをクラス全体で共有する中で“I agree with ○○, and...” “I think that...because ...” “To go to foreign countries is dangerous.” など、対話に必要なであろう表現を確認するとともに、自分の考えをわかりやすく伝えるための英語表現を学びました。

(2) クラスで一つの話題について対話しよう

授業者はクラスで話題にしたい内容が書かれた英文を配付しました。第1時では修学旅行に関する内容で、第2時では自由時間の過ごし方に関する内容について話し合いました。

Today's article

When junior high school students go on a school trip, they can't bring their cell phones because it is a rule, but many students break this rule. Teachers say, "To bring a cell phone is not good." Students say "To bring a cell phone is useful to get information." Do you think it's OK to bring a cell phone to Kyoto on your school trip?

~memo~

第1時で使用した記事

子どもたちは英文を読み、自分の考えをメモしていききました。自分の考えを話す準備ができたところで、グループで意見を伝え合い、その後、クラス全体で意見を交換していききました。授業者は、子どもが発話した英語を、必要に応じて言い換えたり、修正したりするとともに、出された意見を板書していくことに努め、できるだけ子どもたちで話し合いが展開されるようにしました。

第1時では、自分の意見を述べることに終始していた子どもも、第2時では友だちの意見に自分の意見を重ねることができるようになってきました。

以下は第2時で交わされた意見交換の例です。

- A: I think playing with friends is good because I like friends.
B: But my friends are busy.
C: And playing with parents is good because they know their children and listen to their children. I am sometimes tired to use my mind for friends. (気をつかう)

など

グループや全体での対話を経て、改めて自分の考えを書く時間を設けました。自分の考えが変化していることを実感したり、英語の正確さを確認したりするためです。自分の考えが変化しなかった子どもも多かったようですが、メモする際に、自分の意見や英語に自信をもてなかった子どもも、この場面では自信をもって表現することができたようです。同時に、対話することに対しての意欲

も高まってきたようすでした。

(3) 仲間と対話したい英文記事を作ろう(2時間)

仲間と自由に対話したいと感じている子どもたちが、話題を見つけ、英文記事にしていきました。単純な質問文 "Do you think it's OK to watch YouTube?" を用意するのではなく、"YouTube is very interesting and useful to get information, but there are many bad channels in YouTube for children..." のように、多様な考えを生み出し、対話が活発になりそうな記事にすることを、授業者は子どもたちに促しました。

日常的话题や、社会的な話題など、話ができる材料は無限にありますが、実際に子どもたちが多様な話題を取り上げたことに授業者も驚きました。

自分たちで話題を見つけることや、それを英語に変換することは、子どもたちにとって難しいと予想しましたが、辞書を用いたり、仲間や ALT に質問したりして乗り越えていきました。

Today's article

America change leaders lately.
From Obama to Trump.
Japan will change leaders too.
By the way, History has many leaders.
For example ...
Hitler, Obama,
Lincoln, Rocket man,
and Abe.
They has strong policy.
So, they changed the world.
Who do you think is a good leader?

子どもたちが作成した英文記事

(4) フリーイングリッシュトークで対話しよう

前時とは異なる4人組を作り、話題にする英文記事の一つ決めて、メンバーはその英文を読んでいきました。わからない単語や文は記事の作者に質問し、英文記事を理解していきました。英文を理解したら、自分の意見をメモし、その後グループで自由に対話していきました。以下は「英語を日本人は勉強すべきか」という記事についての対話です。

A: I don't think Japanese people have to study English.

B: Why?

A: Because I can use a smartphone and I can use Google Honyaku.

B: But we can go to foreign countries if we study English. How about you?

C: I think studying English is very hard.

など

授業者と ALT は対話に加わって、子どもたちの発言に対し、相づちをうったり一言加えたりしながら「伝えることができた」という達成感を得られるように支えていきました。また、発言を続けることができなくなった時には、発言を引き出すような質問をするといった役割を果たしていくことで、子どもたちの対話を見直すきっかけとなったようです。

グループ活動後に、全体で共有したい内容や感想について子どもたちに質問しました。子どもたちは、おもしろい記事や、話し合いのようすについてクラスに伝えながら、英語で伝え合うおもしろさや喜びを改めて実感していきました。

- We talked about "who is the best leader in Japan in the history." It was fun.
- ○○san and my ideas are different, so we enjoyed talking.
- ○○kun was really funny. I enjoyed talking with him.

など

「どのような意見をもつことができたか」「どのくらい活発な話し合いができたか」「英文を正確に用いることができたか」などについて、対話の後で改めて自分の意見や感想を書いていきました。「グループのメンバーを変えて話してみたい」「今日は日本語ばかり使ってしまった。次回は英語を

もっと使いたい」といった声が聞かれました。それぞれが自分の目標を定め、次時につなげていました。

題材の振り返りでは、子どもたちは次のような感想を書きました。

- 最初は日本語ばかりで話してしまったけれど、最後の方はたくさん英語でしゃべることができた
- 自分がうまく説明できなくても、伝えようとするところがおもしろい
- いろいろな人のいろいろな意見が聞けたり、自分で文章を工夫したりすることができた
- ALT の先生が入った時に英語で伝え合う難しさを実感した
- 5 W 1 H で質問し合うことがより考えられて面白かった。会話が続く
- I want to bring out members' thinking by good questions. What a fun class it is!
- It was so good! I could talk with many people who have different ideas.
- It was very interesting and fun!! Because I could exchange many opinions. To tell my opinions is very hard and difficult. But when I could tell my opinion, I was happy.
- First time, I talked my opinion only. I could not ask my group's members. But next time, I used "questions (why? How about you?)" I knew their opinions, so I could understand their opinion.

など

また、「この活動を通して不定詞・動名詞の文法を使えましたか」とアンケートを取ったところ、8割の生徒が「使えた」と答えました。「不定詞はとても便利な表現だと思う」という感想も述べられて、英語運用能力の向上にも寄与したことがうかがえました。